

Vol.21 卒業生の学校制服に対する意識調査

在学中は、あたり前のように着用していた制服でも、卒業してから振り返ってみると、在学時とは違う存在に感じられるのではないのでしょうか。

今回は、学校を卒業した20代以上の人たちが制服について、どのように思っているのか調べました。

調査概要

調査対象：全国の20代以上の男女321人
(男性158人、女性163人)

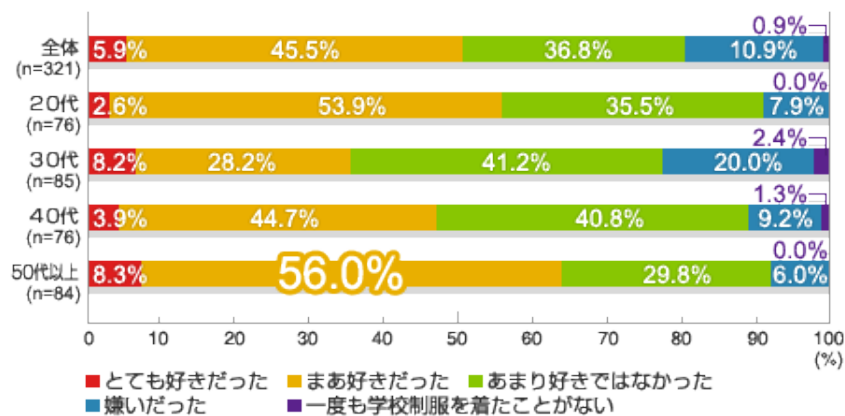
調査方法：インターネットリサーチ

実施時期：2007年9月



Q 学生的时候、自分の制服が好きでしたか？

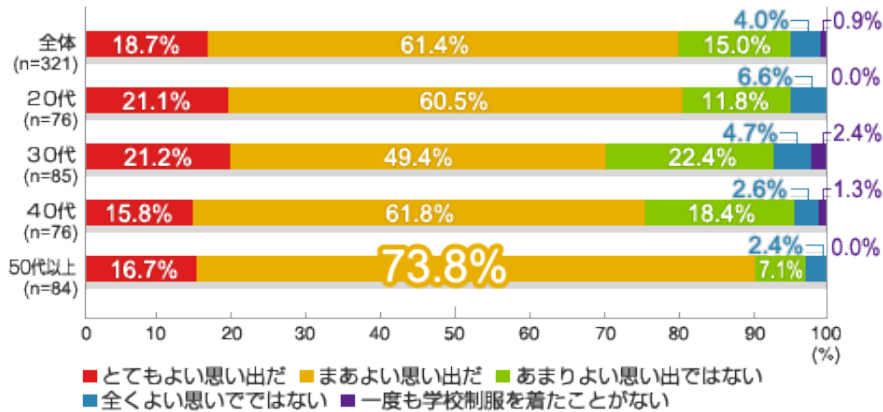
学校の制服を「とても好きだった」「まあ好きだった」と回答した人が全体で51.4%と過半数を占めました。年代別に見てみると、「とても好きだった」「まあ好きだった」という回答の割合が最も高いのは50代以上の人たちで64.3%を占めています。



【図1】学生だった当時、自分が着ていた制服は好きでしたか？(単数回答)

Q 今、振り返ってみて制服はよい思い出ですか？

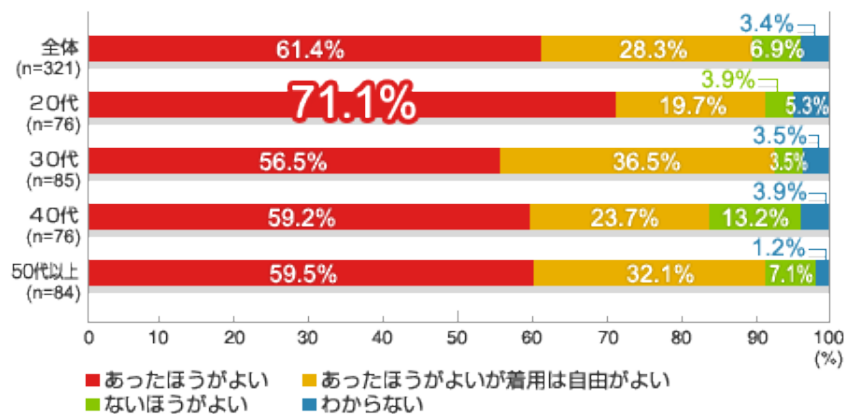
学生時代に制服を着ていたことは「とてもよい思い出」「まあよい思い出」と回答した人が80.1%でした。特に50代以上の人たちは、「とてもよい思い出」「まあよい思い出」という回答が90.5%で、他の年代の人たちよりも制服の着用をよい思い出として捉えていることがわかります。



【図2】今、振り返ってみて学生時代に制服を着ていたことは、よい思い出になっていますか？（単数回答）

Q 学校制服はあったほうがよいと思いますか？

学校制服が「あったほうがよい」という回答は全体の61.4%でした。特に20代の人たちの間で、制服が「あったほうがよい」という回答が多く、71.1%でした。



【図3】ご自身の着用経験に関わらず、学校制服そのものはあったほうがよいと思いますか？（単数回答）

まとめ

今回の調査から、学生だった当時も制服が好きだったという人が多かったのですが、学校を卒業したあとで振り返ってみたときのほうが、さらによい印象を持っていることがわかりました。特に、50代以上の人たちにとっては、制服を着用したことはよい思い出になっているようです。また、卒業してそれほど時間が経っていない20代の人たちにとっても制服は大切なもので、制服の必要性を感じている人が多くいました。

制服を着なくなって何十年も経った人たちにとっても、制服は学生時代のよい思い出の一部として記憶に残り続けていることを改めて感じました。学校を象徴し、学生のときにしか着ることができない特別なものだからこそ、人は制服に価値を感じるのかもしれない。

毎月最終
火曜日
更新

kanko ホームルーム ～学生を読み解くデータ集～

kanko ホームルームは、学生を取り巻く環境や子どもたちの意識・ライフスタイルについて、多角的に調査・分析し、その結果をお届けしています。

ホームページでは、今回ご紹介した調査データ以外にも様々な情報を掲載しております。

<http://ozaki.jp/homeroom/>